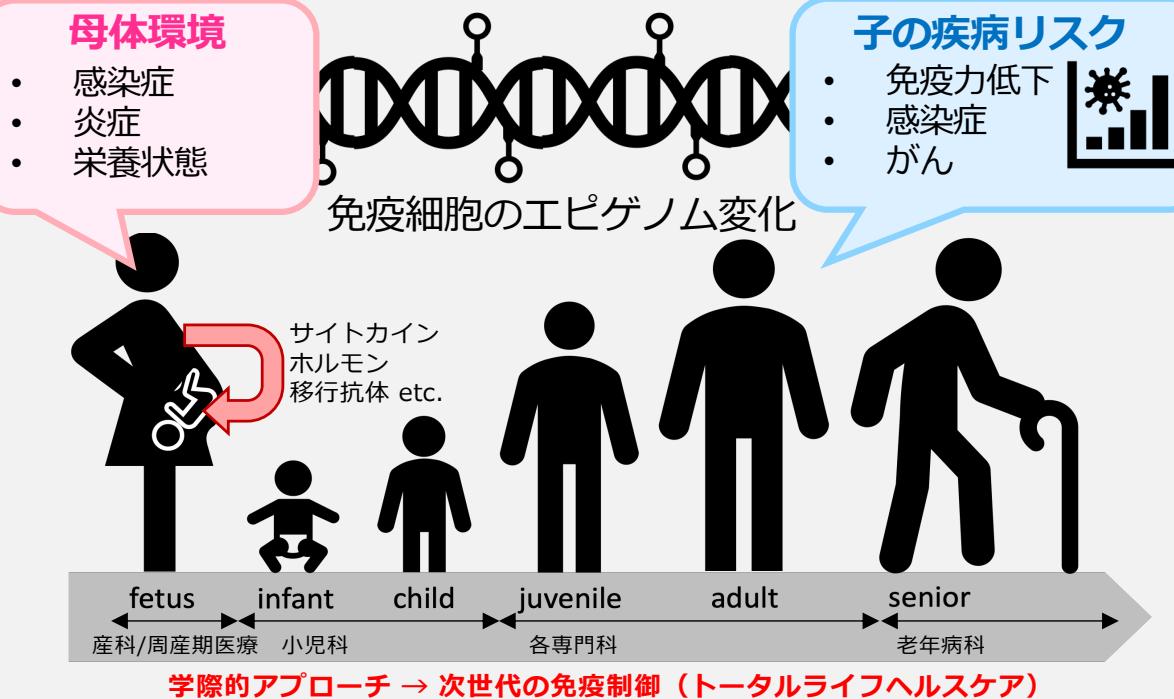
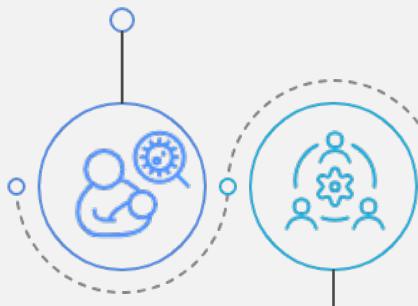


出生前環境による出生後の免疫システムの形成



母子免疫訓練の基礎研究

次世代の免疫系と疾患リスクへの影響



学際的アプローチ

DOHaD概念に基づく
分野横断型研究

次世代の免疫制御戦略

免疫制御のターゲティング



介入治療法の開発

食品由来の機能性成分
シンバイオティクス

研究成果の社会実装

産官学ネットワーク



次世代の健康維持

次世代の集団免疫強化
と感染症制御

母体の炎症は、赤ちゃんの免疫に影響する！

病原体が直接赤ちゃんに移らなくても、母体で起きた「炎症」が、赤ちゃんの免疫機能を左右します。この変化は成長後も続き、疾患リスクに影響します。私たちは、「慢性的な感染症がある母親から生まれた子どもの免疫はどう変わるのか？」を研究しています。対象は、途上国で流行している 内臓型リーシュマニア症という寄生虫感染症。マウスを使った研究で、母親がこの病気を持っていると、生まれた子どもは 見た目は健康でもワクチンへの反応が弱いことが分かりました。これは、次世代の免疫力が低下する可能性を示す大切な発見です。一緒に「未来の母子医療」を切り開きませんか？

